

■10月11日

宮古島への入域数、2012年上半期、前年同期比3%増、スカイマーク参入で低運賃が後押し

宮古市観光商工局のまとめによると、宮古島への今年度上半期の入域観光客数は20万5434人で、年間で41万人を達成した2012年度の上半期と比較し6117人(3.07%)上回る結果となった。同局ではスカイマーク就航による航空運賃の低価格化や島外での誘客活動の効果が表れているとの考えを示すとともに、2期連続での40万人超えに期待を寄せる。

宮古毎日によると、市観光商工局の下地信男局長は「スカイマークが4、5月に(那覇-宮古線を)運休していたため前半は低調だったが、就航再開後、夏場に盛り返している」との見方を示した上で、「スカイマークの就航で航空運賃が安くなっていることが広く認知されるようになり、若者を中心に安定的に観光客が伸びてきていると思う。一括交付金を活用し首都圏や那覇で宮古島をPRする鉄道車両広告を掲載する誘客活動の効果も出てきていると思う」と分析。新石垣空港開港に伴う八重山への観光客数増加が宮古へも波及効果を生んでいるとの考えも示した。

(宮古毎日新聞)10/10

<http://www.miyakomainichi.com/2013/10/55339/> (-> <http://www.miyakomainichi.com/2013/10/55339/>)

日航、ソウル「韓国都心空港」で搭乗手続きサービス開始

日航は、空券の発券や出国手続きができるソウル市江南区の「韓国都心空港」で、事前搭乗手続きサービスを開始する。

手続きが可能なサービス時間は午前5時10分から午後6時半までで、搭乗の3時間以上前ならいつでも手続きが可能。都心空港で搭乗手続きと出国審査を終えた乗客は、仁川国際空港や金浦国際空港で専用の出国ゲートを利用できる。

因みに、現在「都心空港」で搭乗手続きサービスを行っているのは、大韓航空やアジアナ航空、チェジュ航空など韓国の航空会社のほか、タイ国際航空、シンガポール航空、エア・カナダなど。

(yonhapnews)10/10

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/10/0500000000AJP20131010003600882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/10/10/0500000000AJP20131010003600882.HTML>)

エアバス、航空貨物市場予測、今後20年間、航空旅客市場を上回るペースで拡大

(WSJによると)

欧州の航空機大手エアバスは10日、世界の航空貨物市場は今後20年間、航空旅客市場を上回るペースで拡大するとの見方を示した。中国などアジア太平洋地域での貨物輸送需要の増加が追い風になるとみている。

エアバスは、世界の航空貨物市場は2032年まで年4.8%のペースで拡大すると予想。これは航空旅客市場の年成長率予想の4.7%をやや上回る。エアバスは、輸送量の増加で32年までに世界の貨物機数は現在の1645機から2905機に増え、貨物機の需要は871機増えると見込んでいる。

航空貨物業界は、世界の経済活動の低迷によって11年から不況が続いており、多くの航空会社が貨物機の一時待機や新規発注の延期を余儀なくされている。特に大きな打撃を受けているのはアジアのフルサービス航空会社だ。各社の貨物部門は規模が大きく、収入の30%余りを占めている。

国際航空運送協会(IATA)によると、今年1-8月の航空貨物輸送量は前年同期比0.7%増にとどまったものの、8月単月では3.6%増と、緩やかな回復の兆しが見えている。12年通年では1.5%減だった。航空貨物輸送量は輸送トンキロで測定される。

エアバスは、アジア域内の航空貨物市場の拡大に合わせて中型貨物機の需要が大幅に増加するとの見通しを示し

た。世界の貨物機で同社が占める割合は20%程度。残りの大半は米同業のボーイング(BA)が占めている。

エアバスの主力貨物機は中型の広胴型機「A330」。一方、ボーイングは「747」と「777」によって、A330型機より規模の大きい輸送能力100トン以上の貨物機市場区分を独占している。

エアバスは、871機の新たな需要の約50%は中型機が占めると予想。また、超大型旅客機「A380」の貨物機版に対する関心は極めて低いとし、今のところこの機種を開発する予定はない、と述べた

(WSJ)10/10

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303836304579127092711860218.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303836304579127092711860218.html>)

アリタリア航空、資金繰り、イタリア民間航空局による精査の対象の可能性

アリタリアのガブリエーレ・デル・トルキオ最高経営責任者(CEO)は、同社が支払い能力を維持するため少なくとも4億5500万ユーロ(約600億円)を調達する計画についてローマでENACの高官と協議する予定。

アリタリアの資金繰り問題をめぐっては、イタリア民間航空局(ENAC)による10日の精査の対象となる可能性があり、最終的に運航免許を失うリスクが高まっている。

当社の赤井字経営が続いている事に対し、イタリアのエネルギー大手ENI(E)は、アリタリアに業績改善の材料が出なければ、同社への燃料供給を12日までに停止する可能性がある、と、8日付のイタリア紙コリエレ・デラ・セラがENIのパオロ・スカローニ最高経営責任者(CEO)の話として報じている。

(WSJ)10/10

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303836304579126613408147776.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303836304579126613408147776.html>)

(WSJ)10/9

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303941704579123911526806516.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303941704579123911526806516.html>)

エールフランス、ジャカルタ線へ就航、来年3月

エールフランス航空は2014年3月30日、ジャカルタに就航する。同社のパリーシンガポール線をジャカルタまで延伸し、デイリー運航を行う。

使用機材は、ボーイング777-300型機、座席数はファースト8席、ビジネス67席、プレミアムエコノミー28席、エコノミー200席。

なお、ヨーロッパからインドネシアへ乗り入れは、KLMオランダ航空がアムステルダムからジャカルタにデイリーで乗り入れているほか、シンガポール経由でデンパサールにもデイリー運航している。

(トラベルビジョン)10/11

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59175> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59175>)

エミレーツ航空、ドバイークラーク、ミラノーニューヨーク線就航

エミレーツ航空は10月1日、ドバイークラーク線およびミラノーニューヨーク線の直行便を就航した。ミラノーニューヨーク線はエミレーツ航空にとって初の大西洋横断路線。使用機材はフィリピン線がボーイングB777-200ER型機、ニューヨーク線がB777-300ER型機。

また同日、ドバイーブリスベン路線に新たにエアバスA380型機を導入。これにより、ブリスベンにはエアバスA380型機

の22番目の就航地となった。

(トラベルビジョン)10/10

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59163> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59163>)

中国国際航空、北京—チェンマイ線就航

中国国際航空(エアチャイナ)は11日、11月7日から北京—チェンマイ線に就航すると発表した。

使用機材はボーイング737-800、月、木、土の週3便で運航を行う。

(エアチャイナ プレスリリース)10/10

<http://www.the-mivanichi.co.jp/special/prwire/detail.php?id=201310105332> (-> <http://www.the-mivanichi.co.jp/special/prwire/detail.php?id=201310105332>)

日航・日本郵船、小口保冷輸送サービス、と何アジアに積極的に展開

日航と日本郵便は10日、小口保冷配送サービス“クールEMS”サービスを今後東南アジア市場で積極的に売り込む方針とともに、2014年度中に冷凍分野のサービス提供を発表した。

両社は2013年4月から、日航の航空便と日本郵便の配送網を活用して、一定温度(2~10度)に冷蔵できる専用の保冷容器・保冷剤によって、シンガポール、台湾に小口配送するクールEMSサービスを実施している。10月からは香港での引受・配達も開始した。両社は今後も、クールEMSの引受・配達地域の拡大を図っていくとしている。

(日刊航空)10/11

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf>)

(JALプレスリリース)10/10

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002675.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002675.html>)

国交省、「航空安全プログラム」公表、リスクベースを基にした考え方に切り替え

国交省は9日、国際民間航空条約に従い、日本での「航空安全プログラム」(State's civil aviation Safety Program)を策定、公表した。

航空分野の安全の監督は2014年4月から原則、このプログラムに基づいて行われることになる。航空安全プログラムでは、これまでのコンプライアンスに基づく安全統括から“リスクベース”を基にした考え方へ切り替える。

＝以下 国交省プレスリリース転記＝

航空安全プログラム」の策定について

近年、世界的にみて民間航空分野における死亡事故発生率は、下げ止まり傾向にあり、国際民間航空機関(ICAO)では、今後、航空機の発着回数の増加に伴い、航空事故等の発生件数は増加すると推計しています。これを踏まえ、今以上の安全性向上を図るため、ICAOは、締約国が「State Safety Programme(SSP)」を導入することを国際標準としました。

これを受け、国土交通省航空局は、民間航空を監督する者として、民間航空の安全のために自らが講ずべき対策等を網羅的に規定する規程として、「航空安全プログラム」を策定いたしましたので、お知らせします。

なお、本プログラムの適用は、平成26年4月以降を予定しています。

資料:「航空安全プログラム」(-> <http://www.mlit.go.jp/common/001014969.pdf>)

(日刊航空)10/11

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf>)

(国交省プレスリリース)10/9

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk2_000003.html (-> http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk2_000003.html)

スカイマーク、9月、旅客輸送実績、平均搭乗率77%

スカイマークは10日、2013年9月の旅客輸送実績を発表した。これによると、提供座席が前年同月比0.2%減少したのに対し、合計搭乗者数は同0.2%増加の62万3,250人だった。平均利用率は77%と前年同月と比べて、0.4ポイント上昇した。

沖縄離島路線では、成田、神戸、那覇といった各地からの石垣線の利用率が5割前後に下がったが、那覇—宮古線は72.9%と好調。

LCCと競合する成田路線の搭乗率は、成田—那覇線76.3%、成田—札幌線69.2%、成田—福岡線76.3%だった。

(日刊航空)10/11

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1011-03.pdf>)

(スカイマーク プレスリリース)10/11

http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.html (->

http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.html)

* 那覇—宮古線 :スカイマークHPより

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
提供座席数	-	-	31,152	24,426	21,594	20,886
搭乗者数	-	-	9,774	13,614	18,571	15,217
L/F	-	-	31.4%	55.7%	86.0%	72.9%
前年比	-	-	52.8%	89.1%	183.4%	98.6%

※2011年9月15日より2012年3月31日まで運航
2013年6月1日より運航